

令和4年度第2回志摩市子ども・子育て会議議事録

日時：令和4年11月28日（月）

17:30～19:00

事務局：開会あいさつ

会長：あいさつ

事務局：委員18名中16名出席

参加者過半数以上の出席を確認したため会の成立を報告。

配付資料の確認

会長：それでは改めまして、こんばんは。お集まりの委員の皆様には、児童福祉や子育て、あるいは教育の経験のある方々にご支援を賜りたく存じます。この会議にせっかくお集まりですので、何とか多くの未来に向けたご意見をいただきたいと思います。

皆さんのお考えや、周りの方からこういう話を聞いたよ、ということも含めて是非ともご協力のほどよろしくお願いいたします。

それはまず、事務局から説明をいただいて、そして委員のみなさま方からご質問、あるいはご意見を伺えればと思います。

それでは事務局の方でよろしくお願いいたします。

事務局：まずは今日の資料の説明をさせていただきます。

最初に資料の3ページ資料2をご覧ください。こちらの方は、子ども・子育て支援事業計画等に関する中間年の見直し資料といたしまして、上段の表につきましては、平成31年度から令和6年度までの人口の推移をあらわした表になっています。各年4月1日現在の人口となっています。令和5年度及び令和6年度は、平成31年度から令和3年度までの人口の増減率を加味した推測の値となっております。

こちらの表を見ていただいた通り、0歳、生まれる児童の人数は年々減少してきている状況となっています。

また、下段の表には計画に関わる0歳から6歳までの人数を年度ごとに集計した表となっております。こちらの集計でも、増減率を見ていただきますと、年々人口が減少していることが見て取れます。

これらの状況を踏まえまして、資料1の1ページの方をご覧ください。

こちらの表に関しては、国からの通達により、教育・保育給付認定を受けた保護者の認定区分ごとの人数が、計画書に記載されている量の見込みと比較して、大きく乖離している場合に、適切な基盤整備を行うため

に、計画の見直しを行うこととなっております。志摩市の計画書の冊子では64ページになります。

教育、保育体制の確保というところの見込み量の確保の方策について、計画の中間年である今年見直すことになりました。見直しの方法としまして、令和3年4月1日時点における実績値に基づき、計画と実績で10%以上の乖離が見られる項目について見直しを行いました。資料1の計画の基礎となる児童数ですが、資料2に記載しております人口の推移を元に算定しております。

0歳と1・2歳の児童数の減少幅が大きいことから、見直しをすることになりました。また、3歳から5歳、6歳から8歳、9歳から11歳の年齢に対しても、それぞれ人口は減少していますが、10%以上の減少までには至っていませんので、計画のままいたします。

こちらの人数を基礎としまして、計画の見直しにつきましては、会議資料の別紙、第2期志摩市子ども・子育て支援事業計画中間見直し資料の概要としてお渡しをさせていただきましたので、そちらの方もあわせてご覧ください。

志摩市の現状としまして、今回計画の見直しをした理由の一つは、児童数の減少があります。もう一つは、施設の状況が計画を策定した時点と今年度とでは違いがありますので、それも見直しをすることといたしました。

もう一つの理由としまして、民間の保育施設で、計画策定時はしまの杜神明幼稚園と第二しまの杜保育園とがありましたが、こちらの施設が今年、両方を併せた認定こども園として、しまの杜こども園という形になりました。

このことから、しまの杜神明幼稚園がなくなり、計画にあります1号認定というところなんですけれども、1号認定は認定こども園や幼稚園で専業主婦家庭の場合が1号認定なんですけれども、こちらの方が、しまの杜神明幼稚園が無くなったことにより認定が減少しましたので量の見込みの下方修正を行いました。

また、2号認定の3歳以上教育希望については、計画の計上誤りということで、志摩市では認定はありませんでしたので、修正をすることにいたしました。

また、3号認定、0歳については今年度の4月入所児童の利用申し込みがあった保護者の9割が就労及び求職活動となっております。また、令和5年度4月からの利用申し込みがあったすべての保護者で就労となっていましたので、今後も0歳の保育の利用が見込まれることから、計画の数値は、現状に合わせた上方修正をすることにいたしました。

以上が、**資料1**の1ページの見直しをした項目の説明となります。その他の項目については、10%以上の乖離がありませんでしたので、現状のままとすることにいたしました。

続いて**資料1**の2ページ目にいきたいと思います。

子ども・子育て支援事業の量の見込みについてですが、放課後児童健全育成事業、こちらは放課後児童クラブのことですが、計画の策定時から受け入れ定員が磯部放課後児童クラブと志摩放課後児童クラブで増員を行っていますので、確保の方策をそれに合わせて修正をいたしました。

また、一時預かり事業（幼稚園型）については、先ほども説明をさせていただきましたが、しまの杜神明幼稚園が対象となっていた事業ですので、令和4年度からしまの杜神明幼稚園がこども園となったことで、対象となる施設が無くなりましたので、修正を行うことといたしました。

もう一つ、乳幼児全戸訪問事業ですが、こちらは生後4ヶ月までの乳児のいる世帯、すべての家庭を訪問し、子育てに関する情報提供や養育環境等の把握を行う事業のことですが、こちらでも出生数が減少しているため、計画の人数を現況に合わせた形で下方修正を行うことといたしました。

以上が2ページ目の資料の説明となります。

今回見直しを行うにあたって、概要にも示させていただいた通り、計画と大きく乖離している部分に関して、中間年では見直しを行うことといたしまして、グレーの色付けをさせていただいた部分で、見直しが必要ではないかということで、今回、会議資料として提案させていただきました。説明は以上となります。

会長：ありがとうございます。

子ども・子育て支援事業計画に関する中間見直しの案について説明をいただきました。数字ですので、規定に則ってということで、10%乖離というところをベースに変えていただいた見直し後の案をしていただいたということです。その部分もそうですが、それ以外も含めていただいた事務局からの説明にあります内容につきまして、ご質問等ございませんでしょうか。どのような視点からでも結構です。

1点確認なんですが、中間見直し資料の増減率というのは見込みで出してる数字でいいですね。

事務局：はい。そうです。

会長：見込みに対して、こういうふうに減らすということですがよろしかったでしょうか。どのような視点でも、あるいはこのグレー以外のところも、気になることありましたら、ご意見いただければと思います。

特に保育所、幼稚園関係の委員の方々はよろしいですか。数字の問題

ですので、なかなか論点が見出しにくいかもしれませんが、よろしいでしょうか。

では今回の議事である志摩市子ども・子育て支援事業計画に関する中間見直しの数字のことに關しては、了承いただいたということでよろしいでしょうか。

はい、ありがとうございます。議事としては以上なんですが、今回時間を取っていただいたのは、令和4年度は、この第2期の計画が始まって2年、計画が始まった時に私は関わらせてもらってないので、この経緯はわからないんですが、計画が令和6年度までで、令和7年からまた、第3期が令和7年度から始まる予定ですよ。

事務局：はい。

会長：ですので、令和6年になってからというよりは、来年度ぐらいから7年度に向けて、この現行の第2期の計画を評価しつつ、同時進行で7年度の計画を作っていないといけません。そういうこともあって実はこの数字を見せていただいたのと、先ほど冒頭にもお話しさせていただいた、志摩市内の保育所、幼稚園を機会あるごとに回ってみようかなと思って、それで今日、まず磯部幼保園とひまわり保育所を回らせていただきました。

今日、子どもたちと触れ合って、一緒に遊んだりしながら過ごしてきたのですが、やはり子どもたちって本当にキラキラ輝いていて、本当に元気なんです。でも、子どもが少なくなるとおそらくこの関わりっていうのは、少なくなっていくというところを考えた時に出生率も下がっている。

それから、ウィズコロナになるかアフターコロナになるかわかりませんが、ますます厳しい状況の中で、親御さんが働いていけないとなった時に、受け入れ側の保育所、幼稚園の問題もありますし、先生たちの待遇とかもあります。それから何よりも子どもたちが過ごす環境であったり、空間であったり、触れ合う人であったりっていうことを考えたときに、少し今回お時間をいただいて、皆さんから、どういう風な7年度の計画、第3期に向けて、市民向けにどういう風なアンケート項目、あるいは、どういうことを聞いていけば、よりこの子ども子育ての環境が充実していくかとかを、当会議だけではなく、ここに志摩市の職員もいますので、雇用とかも含めて、少し大きく見ていかないと、なかなか地域活性化っていうのは難しいと思います。

そこでもどんな視点でも結構ですので、第3期の計画を立てていく上で、こういうところを少し考えた方がいいんじゃないかとか、こういう風な

ことを市民の皆さんに聞いた方がいいんじゃないか等、あるいは皆さんの身の回りで、子どもや子育てについて、今こういう風な課題があるんだとか、問題があるというのを、それぞれのお立場から、自由に申し込みたいと思っています。

当然、子育てする側、受け入れる側、周りで見守る側、いろいろな視点があると思いますので、ぜひともどなたかから、意見を出していただきたいと思っています。

それではどうぞよろしくお願いします。

委員：今、未来を見据えてというようなお話でしたので、一応量的なことは、大分充足されたと思います。そうすると次、何が起こってくるかという環境整備と中の人員の見直しが必要となってくると思います。

特にうちの放課後児童クラブでは、子どもが小学生ですので、僕らみたいな超年配と遊ぶよりは、若い人遊びたいというのが当然あります。うちの方では大学生とかにボランティアに来てもらったりしているのですが、結構、大学生も楽しそうにしていますし、子どもも楽しそうにしているので、大学生や学生の活用というのも次の計画から取り入れていただければと思っております。以上です。

会長：ありがとうございます。

そうですね。やはり若い人材をどういうふうに呼び寄せて、なおかつできればここに、定着していただければという思いもあります。

これに繋がってというのではなくてもいいので、どんどんそれぞれのお立場で自由にご発言いただければと思います。

委員：私は、今回の第2期の子ども・子育て会議にあたって、もう一度、この冊子を最初から読んでみました。32ページのところで、保護者の方に向けたアンケートがあったのですが、この地域の子育て支援サービスの内容や利用方法がよくわからないっていう方が5%見えました。やはりそういう方に、こういう子育て支援事業があるということを知ってもらう努力が必要なのかなと改めて思いました。

私のいる子育て支援センターは、小さなお子さんを連れた保護者の方が来てくださるところですが、このアンケートにもあるように、悩みとか気になることは、誰にでもあると思いますので、気負いせずに来て、ゆったりと子どもを見れて、気軽に相談ができて、笑顔で帰れる場所を目指していく努力が必要なのかなと思いました。以上です。

会長：ありがとうございます。

せっかくいい場所があっても知らないっていうのはある意味、損をしてるって言い方もおかしいですが、どういう風に広報していくかってい

うことも含めて、市の方から大々的にやるのもそうですけど、横の繋がりで、草の根ではないんですが広がっていくっていうのもあり得るかもしれません。今は本当にSNSの時代ですので、もしかすると、何かLINEでグループができて、そこでこんなのあるよというような草の根運動もあり得るかもしれませんね。

はい、広報の観点も出していただきました。

計画にどういう風に反映するかとかはあまり考えずに、自由にご発言いただければと思います。お願いします。

委員：今の意見に関係してくるのか分かりませんが、知らない、周知するというのと、もう一つ、知っているけども使い難いというのがあると思うのです。行政サービスの無茶を言っているのかも分かりませんが、例えば夕方5時まで利用できる方っていうのはどういう方なのかなと。

いろいろなサービスが仕事が終わってからでないと使えない保護者の方とか、休みの日にあったらいいのになあっていう。そのためには、お金が必要なんですけど、今の時間外の部分で、もう少し利用出来るようになると、もっともっと有効活用できるんじゃないのかなあって思うのが1点です。

それともう一つは、福祉の管轄では無くなってしまうのかも分かりませんが、子どもたちに将来の夢をというところでいくと、我々学校関係者としては、中学校卒業後のことを考えるのです。南勢地域高校活性化協議会がもう何年も続いています。志摩高校、水産高校、鳥羽高校、それから南伊勢校舎、すべてが対象となっていて、県の方はおそらく、高校統合という方向に向けていくんだらうなって思っているのですが、やはり、そうなった時に地元で高校が無くなっていく寂しさであるとか、伊勢の方へ通学することについて、そこには経済的な負担が伴ってくるのだらうなと思います。やはり中学校卒業後の進路というのは子どもたちの将来の夢というのに大きく影響してくるので、そこら辺も少し市全体で考えていただけるとありがたいかなと思います。以上です。

会長：はい、ありがとうございます。

確かに利用が5時までだと、私も誰が使うの？と思うところはあります。何よりも共感するのは、中学校卒業後の進路はすごく大きいですね。周りにロールモデルがあって、そこに行って、こういうことをやりたいというのが、どんどん外に行ってしまうっていうのはあまりよくないってところがありますよね。市全体、あるいは保護者も含めてこのあたりもなかなか難しいところはあると思いますが、そういう意識を持っていくというのはすごく大事なかなと思います。

本当にどんな視点でも結構ですので、環境の問題、人材の問題、いろいろあると思いますが、いかがでしょうか。

委員：この平成31年1月のアンケート調査なんですが、就学前児童調査の保護者1,000人、小学生児童調査の保護者1,000人からの答えの回収率が、就学前で54%ぐらい、小学校児童で43%ぐらいということで、調査方法が郵送による配布や回収ということだったので、これが施設、または学校を通してでも、これくらいの回収率になってしまうのかなと。今は、若い保護者の方ですと、携帯などを使っているので、本当に実態を知ろうと思うと、もう少し回収率が、60%以上ぐらいでないとなんか本当の声とか、不自由していることが分からないのではないかなと思うので、今後のアンケート調査の目的がこういう把握という様な内容でしたというなら、もう少し回収方法を検討したらどうでしょうかと思います。

会長：ありがとうございます。

この第2期の冊子の17ページを見ると、対象が就学前児童が1,000人、小学生児童が1,000人に対して、54.1%と43.6%と、両方合わせると半分いかないということになります。確かにこういうアンケートって、これまでも回収率がすごく低いので、本当のことを反映してるのかなって疑問に思うことはあるんですが、前回のアンケートの回収の経緯なり、この数字に対して何かこう、市の方で何か情報ありますか。

結局なんか集まらなかったんだとか、期限を切ったらこうなんだよとか、あるいは紙だったからこうなのかな等、何かありますか。

事務局：1回目というか1期目というか、最初のこの事業計画を策定した時も、パーセント的にはこの様な低い数字だったように思います。パーセントの数字までは覚えてませんが、低かったかなと。

一つ、その時に言われていたのが、回答数というか項目が余りにも多過ぎて、最初の何歳とか男女とかいうような部分は、ぱんぱんぱんて行くんでしょうけれども、そのあと一つひとつを読んで、自分がどれに当たるかみたいところで回答していくのに、結構時間かかるといったようなところで、苦情とまではいきませんが、結構そこが大変だったということは聞いたことがあります。

当然2期目のアンケートにしても同じくらい、でないと比べようがないので、2期目の項目もほぼ変わらなかったような記憶があります。

回収率のことを言ってもらったんですけれども、回収方法、こちらの方が検討の余地があるのかなというふうに思います。以上です。

会長：多分保護者の方、何人か見えると思うんですが、どういうふうなシステムを取れば回収率は上がるでしょうか。これはどこの自治体も悩んでい

ることだと思うのですが、アンケートの回収方法について、こうしたら送るよみたいなものがありますか。

委員：やはり、保育所や幼稚園や小学校を通して回収するのが一番じゃないですかね。個人個人でやったら、多分、回収率は大分悪いと思います。

学校なり、保育所を通すのがいいと思います。

会長：はい。ありがとうございます。他いかがでしょうか。

委員：はい。さっき言ってもらった通り、学校の方がいいのかなと。

実際、この会議の案内も学校からではなくて郵便だったので、郵便はあまり見ないので、妻に手紙が来ていたよと言われて、今回のこの会議の案内を見ました。それ以外のPTAの通知とかは、基本的に園長先生から手渡されて、すみませんまた次お願いしますって言われるんでちゃんと目を通します。手渡される手紙だと基本的にはちゃんと見るし、学校単位だと匿名で誰が出したかは、わからないけれど、あの保護者は出したらしいねとかいうのが分かるので。市でやると絶対に自分が出さなくても、市には分からないとなるのでやはり回収率は下がってくると思う。アンケートの内容見て、別に自分には該当するような質問ではないと思うと、やらなくなってしまう。それなら言っていた通り、学校単位の方が回収率はもうちょっと上がるのかなと思います。

会長：ありがとうございます。他いかがでしょうか。

委員：今、言ってもらったように学校単位で連絡網とかもあるので。それで回答する形でアンケートを取ってもらっても良いのかなと思います。本人次第だと思うので、回答しない人はしないと思います。

会長：はいありがとうございます。

そうですね。私も学生にアンケートって言われた時に、回収率悪いんだろうなと思って、時間作ってその場で、回答させています。それぐらいで、やっと回答してくれるっていう感じを考えると、確かに一つは保育所、幼稚園、小学校、施設を通してってことになるのですが、保育所、幼稚園、小学校関連の方、もしそういう流れになった場合、手間とやってやろうかを天秤に掛けた時にどうですか。有りですか。

委員：もちろん有りですと言いたいんですけど。ただ、こういう流れも一つあるというのを市の方に知っていただきたいのは、今、学校現場もデジタル化をどんどん進めていますので、いわゆる学校評価というものをデジタルに移行していくのはどうかなと。先生方の負担軽減もありますので、また時間をかけて相談させていただけたらなと思います。

会長：はい。ありがとうございます。

なかなかねこういうアンケート回収のパーセンテージを上げる事はす

ごく難しくて、目の前でやってくださいと言っても、なかなか上がらない。その通りなんです、何とかせめて、今おっしゃっていただいた様に6割は超えたいなと。なんとかこれを反映させるのであれば、先ほどもう一つ、項目が多いというのがあったんですが、前は紙で項目を塗るか書くかするのですね。例えばQRコードとかが付いていて、読み込んで、チェックボックスにチェックしていくみたいなんだったら少しはマシですか。どうでしょうか。

委員：前回のアンケート内容とかも分からないので、あれなんです、チェックが多過ぎるのは、絶対にダメなんです。携帯でも、職場でも最近アンケートが多くて、チェック項目が多いとだれるというか、内容も、はいはい、みたいな感じになる。あんまり言うといけないのですが。でも大事だなというのは正直あります。質問も結局、保護者が求めてないやつだと、そんなにいっぱい聞かれてもみたいになる。核みたいな質問を何個かにして、その他に何か、というところで記述をしてもらうのであれば、別に紙でも、QRコードでも変わらないのかなと。

会長：はい。ありがとうございます。

アンケート項目は多分、この18ページから、47ページに渡る各項目だと思います。実は初めて見させてもらった時に、多いなとは思ってました。一般的に心理学的な調査をするときに、選択肢は最大で5件法まで言われてます。5件を超えて6以上となるとなかなか言いにくい。

ざっくりと意見を見るのであれば3件法で、ある程度データを出した時には、5件法までと言われているので、少し今チェックするのが多いかもしれない。それ以上に質問項目が多い可能性があるのも、ある程度、文章を書いてもらって例えばテキストマイニング的に分析をして、よく出てくるキーワードにするという方法もあるだろうし、少しこのあたりは改善の余地というか、特にこういうのを提出してくれる人って、多分意識の高い人、意欲のある人が半分で、我々がこの中で掘り起こしたいのは、ここに答えてもらってない人の中の、本当に困っている人たちを拾いたいとなると、アンケートの方法を考えないといけないかなっていう気がしますね。

このアンケートについて何かありますか。そもそもアンケートやるよりこうした方がいいよとか何かあればお願いします。

市民や子育て世代の人たちの意見を吸い上げるアンケートと、もう一つ、例えばこんなのがあったら良いよねとか、昔の目安箱ではないですが。文科省の思い通りには行きませんでした、教師のバトンみたいな感じ。子育てのバトンみたいなマイナスの方がどんどん出てきてく

れれば、拾えるとか。何かいろいろな方法があり得ると思いますので、ここで結論は出せませんが、まだ来年、再来年とありますので、もし何かご意見ありましたら、事務局の方でも結構ですので、いろいろご意見いただければと思います。

せっかくですので我々の思いがですね反映していくような、会議体になるのが一番いいのかなと思ってます。

アンケートのことで時間をとってしまいましたが、今日は保育所、幼稚園に行ってみて、もう少し、絵本の冊数あったらいいのになと思っていたのですが。あるいは遊具の消毒だとか大変だろうなあと思ってたんですがそのあたりで何かありますか。

要望なり、お考えなり、うちはこうやっているよとか、特に保育所、幼稚園の関連の困りごとはないですか。

委員：コロナに関しては消毒に、保育士さんたちは夕方の結構な時間、おもちゃの消毒から机の消毒から、いろいろなものの消毒に時間が結構とられている感じです。

絵本もコロナの最初の頃は、貸し出しをやめたほうがいいかなというふうになっていました。大王保育所では最近、11月から、やはり絵本って大事だよね。お家の人の膝に抱かれて、絵本を見るっていう時間は大切だよねっていうことで、絵本の貸し出しも始めました。今までなら、毎週借りられたのですが、2週間に1回というやり方にして、お家から戻ってきた時に、その絵本も消毒しています。お家に行ったら、不特定多数の方が触れるということもあるので、消毒したりとか、少し何も触れない時間を置いて待つみたいな感じで、2週間に1回の貸し出しをさせてもらってます。

コロナがあることによって、今まで楽しかった行事とか、楽しい取り組みがなくなるっていうのはやはりいけないよね。本当にコロナに対して、どんなふうにしていったらいいのよねっというのをいろいろ職員間で話しながら対応しています。

会長：ありがとうございます。竹内園長先生、どうですか。

委員：そうですね、今、出てきた意見で本当に現場の声だと思うのです。とにかくうちは私立なので、消毒とかコロナが始まってから、おもちゃの種類が全部変わってしまったんです。

毎日消毒できないものは、使い勝手が悪いし、子どもたちに何かあったらいけないということで、洗濯できない物とか、干せない物、すぐ明日使えない物は、しまいがちになってしまった。

なので、すぐに消毒できるおもちゃばかりを買い足して欲しいと現場

から出てきます。やはりそれにも応じていきたいと思いますが、それには予算が必要、その繰り返しをここ2、3年やっていて、子どもたちが遊びの中でも、一定の物ばかりだとそこでトラブルも起こるし、楽しさもない。だからと言って、みんなで外に行きたいと言っても、外でも密になるといけないので、各クラスで時間を決めてやったりするのが、ここ2、3年の戦いです。保育士もそうだし、子どもたちもそうだったんです。

今、夕方の園庭開放もなかなかできないのです。不特定多数が集まって、お母さん達がおしゃべりしていると子どもたちが密になってしまうとか、見えないところで何かが起こるんじゃないかとか、そういうこともあって、まだまだ保育園の現場っていうのはコロナに対して、気を緩めないような状況が続いているのかなっていうのが現実です。

特に、行事ごとが大きく変わってしまったかなっていうのが一番です。少しずつ、今年から変えて、工夫しながら、密にならない対策をとったり、いろいろなことをして工夫をしてるんですけども、保護者の声は、せっかく私立に入れたのに、何もしないまま卒園するのかなとの意見を聞いた時には、お母さんも私も泣けてきました。これもやりたかった、あれもやりたかったのでえがおに入れたんだよ、と聞いた時には本当に心が痛かったです。

その中でも少しずつ、模索しながら今やっている状況で、ようやく明かりが見えてきたのかなって。特に新しくこの2、3年で入ってきた職員は、コロナから入ってきた職員が多いので、今までやっていた経験が少なかったんで、コロナを中心とした保育の仕方みたいなのを学んでいくところが多いのかなというのは少し感じると思います。

会長：ありがとうございます。山崎先生お願いします。

委員：失礼します。先にもおっしゃっていただいたように、コロナ前とコロナ始まってからでは、いろいろ行事ですとか事業が変わってきています。

その中でも子どもたちに豊かな経験をついてというのは、考えてはいるので、園長会とか主任会とかで考えながら、各園に下ろして行って、やっています。各園でも自分たちも本当に、気を付けることを考えながら模索してやっております。コロナも3年目になってきて、自分たちも行事などを見直ししながら、今までしてきたことを、これはどうかなと振り分けていかなければならないので、それをしながら、少しでも園で楽しく過ごせたらなあというのを毎日模索しています。

たまに、園外保育で散歩に行ったりすると、ご近所の地域の方々が挨拶してくれたり、賑やかな声が聞こえてきたと外に出てきてくれたり、喜んでいただけるので、できる限り交通安全に気をつけながら外には出

て行きたいというのもあるんですけど、触れ合うのがまだまだ難しい状況にあります。でも、子ども達を皆に知っていただける機会は無くしたくはないなというような思いはあります。

近いところに、中学校や小学校もありますので、お邪魔させてもらう時もあるのですが、もっと出来たら良いのになと思いながらも、感染もやはり怖いっていうのはあるので、その狭間で揺れているのが現状としてあります。

会長：ありがとうございます。楠先生お願いします。

委員：先の委員の方に言っていただいたその通りかなと。私たちの園も、夕方になったらおもちゃの消毒、朝は受け入れる早番が受け入れる前に子どもたちが触るところ、職員が触るところ、保護者が触るところすべての消毒をするということで、コロナ前とコロナ渦というところで、職員の負担っていうのはやはり大きくなってきているのかなという風に思います。

ただ子どもたちに対しては、5歳児の1年間っていうのは一生に1度しかない1年間ですので、その中でコロナだからやめるっていうのではなくて、別の形で楽しめるように、職員同士話をしたりとか担任の思いを聞いたりしながら進めるようには工夫しています。あと、コロナがあったからこそ気づけたところっていうのもあって、生活発表会とか運動会とか大きな行事があるのですが、コロナ前ですと、0歳児から5歳児までが皆集まって、保護者の方も全員集まってしていたんですが、コロナ渦ということで、各学年単位で、運動会だったりとか発表会を予定しているんですが、保護者の方っていうのは、自分のお子さんを見に見えているってところで、各クラスごとになったからこそ、ゆったり子どもたちの演技を見ることができて良かったですという声もあったりするので、これはコロナ渦だからこそ、気づけた所だったかなと。そういうところを今後にも生かしていけたらなというふうに思います。

会長：はい、ありがとうございます。今、お答えいただいた先生方で何か市に要望はないですか、予算は大事ですよ。小学校も含めて、志摩市で何か面白い物を売ったり、クラウドファンディングで大量にお金を手にする方法はないですか。ふるさと納税をうまく活用するとかっていう方法もあり得るかもしれないですよ。

そういうふうなところも含めて、やはり保育所、幼稚園が元気でないと私の勝手な思いですが、保、幼、小に子どもがいて、その声が地域に漏れ響いてないと地域は活性化していかないと思うのです。

前もお伝えしたと思うんですが、志摩市の特に海側の方で、学校が統

合して、みんな山の方に行ってしまうと、海側のおじいちゃん、おばあちゃん達がすごく寂しがっているんですよね。これは仕方のないことなんですけど、何か上手く地域と連携してできればいいなと思うんですが。地域を、子どもを核に活性化していくみたいなのがあればお願いします。

委員：もともと育成市民会議というのは、私の記憶によると、ちょっと子どもたちが荒れた時代に、学校だけではなく地域を挙げて子どもたちを見ていこうというところから始まったような記憶があるのですが、今でも、地域を挙げて子どもたちを見ていこうというのは変わっていないと思うんです。

私たちの組織も、例えば、ラジオ体操であったりだとか、園芸活動であったりだとか、内容は地域、地域それぞれ全部違うんですけども、学校と連携をしていかないと、なかなかできないことが多くて、例えば私であれば、神明地区であるので神明小学校にはしょっちゅう出向いて行って、こんなことを計画してるんですけども、というような話をしに行くわけですね。ところが、コロナが始まってからは、どうしてもちょっとこれは無理ですね、中止となってしまうのです。

学校行事ですら中止になっているのに、地域の行事をするっていうのは、保護者の方でもなかなか理解してもらえないということで、ひどい話、ここ2年ぐらいは、もうすべての行事がほとんど中止になっているのではないかなと思います。

今年に入って学校行事も少しずつ実施していく方向になってきているので、今年度は少しずつ再開をし始めたんですけども、この中止になっていた2年間、3年間の間に、校長先生、教頭先生、どちらも異動になってしまっていた、ということがありました。これまででしたら、去年やってきたことが、校長先生がいなくなっても、教頭先生が分かってくれていて、それならこうですねみたいな感じ、教頭先生が異動してしまっても、校長先生がいてくれて、それならばこんな風にしましょうか、みたいな話ができることが多かったんですけども、残念ながらこれが途切れてしまったのではないかなっていうようなところもあって、もう一度、学校との連携を初めから作っていくことももしかしたら必要なのかなということも感じています。

これは子どもたちも一緒に、2年、3年やっていないと、子どもたちもやはり忘れてしまってるというか、そんな行事があったっけみたいな感じ、そんなの知らなかったみたいな感じのこともあるので、そういう難しさを感じているところがあったり、先ほど予算の話も出しましたが、やらないのなら予算もみたいなことがあったりするので、また市のほう

にもお願いできたらなあと思ってるところです。

会長：ありがとうございます。

やはりこの2年、3年、町の行事とか祭りとかもそうなんです、2年、3年しなくっても過ごせる、みたいな雰囲気が出てしまうと、どうしても次、戻すのが大変なところがありますよね。次の令和7年度からの計画の中に、そういう地域の行事であったりとか、伝統文化であったりとかっていうのを子ども・子育ての計画の中で一体的に考えていくっていうのも盛り込んでいいかなという気がしていきますね。つまり、子どもたちにその地域のもの、次世代に伝えていってもらうための、何かしらの予算なりも含めて何か付けていくというのものもあるかもしれませんね。

アフターコロナかウィズコロナか分かりませんが、これまでの志摩市を取り戻すという観点も一つありな視点ですね。とても有用な視点だと思います。本当に2年、3年って恐ろしいもので、やらなきゃ進んでいくよ、本当に学生もそういう感じで、なかったら、それでいいでしょうみたいな感じで終わっている時があるので、それを取り戻すのがすごく大変です。

あと、どうでしょう。どんな視点でも結構です。次回にもこういうことをお聞きしたいと思うので、また用意していただければいいと思うんですが、近所とか周りから、今こんなことで困ってるようなとか、情報があれば、教えていただけるとありがたい。

ぜひともですねこの会議で重ねるたびに、いろいろな意見をいただいて、そしてそれをできればこのアンケートになるのかあるいはインタビューになるのかわかりませんが、出来れば、この計画を改善する時に、団体一人ひとりにインタビュー調査も有りかなと思ってんですが、こういう計画って第3期に入ると、第2期を継続すればいいよね雰囲気が出てくるので、それ、あんまりよろしくないの、第3期はすごく大事ですので、ぜひともですねこのアンケートの取り方、それからどういうふうなところ柱にしていくか、何かこう提言等ありましたらまた次回、ぜひともですね教えていただきたいと思います。

同時に志摩市の方にどんどんご要望いただいて、どんどん蓄積していったって、別に敵対的になろうと思ってる訳ではないのですが、少しでもですね、吸い上げていただければと思います。

それではちょっと真ん中の時間長くにとってしまって申し訳なかったんですが、次に事項書、その他、何か事務局からありますか。

事務局：今日はいろいろなご意見をいただきましてありがとうございます。

また、今年度の会議の予定なんですが、もう一度、年度末ぐらいに今年

度の事業の実績と来年度の事業の予定というところで、また会議の方を開催をさせていただきたいなと思います。

それまでに何かご意見がありましたら、事務局の方まで、また園を通じてでも構いませんので教えていただければと思います。

2月の末から3月ぐらいに会議を予定してますので、またよろしく願いいたします。

会長：はい。皆さんよろしいでしょうか。それでは議事は以上です。

本日は本当に皆さんといろいろなご意見、現状を教えていただきましてありがとうございました。

またこれをですね、私の方と事務局の方とでいろいろご検討さしていただいて、今後の特にアンケートも含めて反映させていただきたいと思いますので、まだまだ意見を募集してますのでどんどん教えてください。

その他、何か気づいたことありましたら、いつでも事務局の方にご指摘あるいはご確認等をしていただきたいと思います。

それでは本日の協議会はこれもちまして閉会させていただきます。長時間にわたり、ありがとうございました。